

ハウレンソウ防除暦

作型: <露地> 春まき・夏まき (ベタかけ資材無し)

【圃場の準備】

1. 土壌消毒の実施: 前作で土壌病害(萎凋病、株腐病、根腐病)の被害が発生した場合は、下記のいずれかの方法で土壌消毒を行う。
 ①土壌還元消毒法(作業マニュアルを確認) ②クローリング 2~3ml/穴、20ℓ/10a 千鳥状灌注後被覆を7~10日間かけて消毒
2. 雑草防除
 耕起・畦立て7日前までに、ラウンドアップマックスロード 200倍希釈液100ℓ/10aを雑草茎葉(少量の場合100倍液50ℓ/10a)に均一に散布する。
3. 前作でケナガコナダニの被害が多かった場合は、クローリングによる土壌消毒が効果あるので実施を検討する。

【栽培・防除暦】

月	旬	重点防除対象 (月別)	栽培作業	必須防除				臨機防除				
				防除資材名	使用方法	使用回数	使用時期	判断基準	防除資材名	使用方法	使用回数	使用時期
5	上	アブラムシ類	(春まき)									
		アザミウマ類										
		シロオビノメイガ										
	中	ハスモンヨトウ										
		ヨトウムシ										
		苗立枯病		播種				毎年苗立枯病が発生する 場合	バンタック水和剤75 (苗立枯・SDHI系)	1000倍液に24時間種子浸漬	1回	播種前
下	ネキリムシ類	播種	ガードベイトA (ネキリ・ピレスロイド系)	3kg/10a株元散布	1回	生育初期 (苗立の頃)	耕起前除草剤散布 をしなかった時	ラッソー乳剤 (土壌処理除草剤)	全面土壌散布 (薬剤150ml・水量100ℓ/10a)	1回	播種直後	
6	上	アブラムシ類	(夏まき)	ダントツ水溶剤 (アフラ・ネオニコチノイド系)	4000倍散布	3回以内	前日迄	ケナガコナダニの発生 が認められる場合	モベントフロアブル (ダニ・テトロン酸系)	2000倍散布	3回以内	14日前迄
		アザミウマ類		カスケード乳剤 (チョウ・IGR系)	4000倍散布	3回以内	3日前迄					
		シロオビノメイガ		アリエッチェ水和剤 (べと・ホスホナート)	1500倍散布	2回以内	前日迄					
	中	ハスモンヨトウ		リーフガード顆粒水和剤 (アミ・ネイストキシン系)	1500倍散布	2回以内	7日前迄					
		ヨトウムシ		ライメイフロアブル (べと・Qit系)	2000~4000倍散布	2回以内	7日前迄					
		べと病		スピノエース顆粒水和剤 (チョウ・スピノシン系)	5000倍散布	2回以内	前日迄					
下		収穫										
7	上	アザミウマ類	(夏まき)					毎年苗立枯病が発生 する場合	バンタック水和剤75 (SDHI系)	1000倍液に24時間種子浸漬	1回	播種前
		苗立枯病					耕起前除草剤散布 をしなかった時	ラッソー乳剤 (土壌処理除草剤)	全面土壌散布 (薬剤150ml・水量100ℓ/10a)	1回	播種直後	
	中	ネキリムシ類		ガードベイトA (ピレスロイド系)	3kg/10a株元散布	1回	生育初期 (苗立の頃)					
		シロオビノメイガ		カスケード乳剤(チョウ・IGR系)	4000倍散布	3回以内	3日前迄	多雨が続く時 (べと病防除)	ライメイフロアブル (べと・Qit系)	2000~4000倍散布	2回以内	7日前迄
下												
8	上	シロオビノメイガ	(夏まき)	スピノエース顆粒水和剤 (チョウ・スピノシン系)	5000倍散布	2回以内	前日迄					
	中			収穫								
下												

【収穫終了後】

1. 被害残渣の除去: 病害虫の被害を受けた残渣を圃場に残すと次作での発生源となる場合があるのでできるだけきれいに取り除いておく。